

2017年12月7日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー  
「大学教育の質的転換と教育・学修支援」

参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 56 名      アンケート提出数： 36 件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・学生スタッフの活用について大変勉強になりました。
- ・可視化→学生の特徴を見られる。(円を目指さない) →どの分野に生きるかわかる。
- ・A.L. (アクティブラーニング) →SA 等の支援、学内の組織が必須
- ・教員に理解してもらおう仕組み作り、非常に難しいと感じた。
- ・AL のための学生による学修支援、バックアップポリシー・・・学修支援の方針は組織的にやっていることが前提となること。
- ・学修支援には学生を活用することがとても有効であることが理解できました。(単に任せっぱなしではなく、適度(切)な教員・職員の関与(促し)も必要だと感じました。
- ・金沢大学、金沢工業大学様双方、先進的な取り組みであり、非常に参考になりました。特に金沢工業大学さまでは、上手いかなかった事例も紹介いただき、後をおいかけるものとして非常に役立ちました。
- ・アクティブラーニングに際し、学修補助による関与について参考となった。
- ・全学レベルでの教学マネジメントとしての教育改善のとりくみがよくわかりました。学生との協働の重要性の再確認になりました。
- ・教員が学生の学びについていかに心をくわいて考えて試行錯誤しているか、各大学のとりくみからよくわかりました。
- ・アクティブラーニング型授業は毎回ではなく、16 回中 3 回など限られた回数が適当であるということ。知識を伝授するという従来型学びと能動的な学びとのバランスで新しい学びがつくられるということ。
- ・SA、TA、ALA の活用
- ・学生によるピアサポート (ALA、シニア SA/TA) の効果
- ・学生の自己成長、ポートフォリオの工夫 (e-ポートフォリオ) とそれによって教員が支援しやすくなること。
- ・金沢工業大学の丁寧な学生支援の様子がよくわかりました。学生の声を大切に、学生の学修意欲向上につなげているところが大変参考になりました。
- ・御両名の教育改革のとりくみに対して深く感動しました。THX、シニア SA、TA の活用が印象的。
- ・アクティブラーニング、ポートフォリオ、FD、SD など、よく耳にする用語についてよく理解していなかったため、基礎的なことが勉強できた。
- ・金沢大学、金沢工業大学での学修支援が大変明確にわかりました。
- ・ALA、SA、TA によるピアサポートが大変重要であるのと、学生一人一人への動機づけの重要性を認識しました。
- ・TA、SA、ALA の活用事例が参考になりました。
- ・学生が主体的、能動的な学びを行うためのヒントを得ました。
- ・具体的なアクティブラーニングの進め方
- ・ALA や TA、SA といった立場の学生が幅広く活躍していることがわかった。

次ページに続く

- ・教育情報の可視化は、結局学習（生）支援につなげるために実施すべきことがよく理解できた。**Back up Policy** の必要性がよく理解できた。「シラバス」の訳語として「学習支援計画書」を充てていることに感銘をうけました。
- ・学生からの意見やアンケートをとりつつ、どんどん改善していけるとても柔軟なとりくみが、すばらしいと思いました。
- ・学びの成果の補強・充実＝反転学習＋ポートフォリオ＋ピアサポート 様々な取り組みが功を奏することが具体例をもとによく理解できた。
- ・両大学での先進的な研究および取り組みをうかがい、大学全体としてどのように取り組んでいるかがよくわかりました。個人の研究や努力をどうシステム化して大学全体のものとしていくのか、その発想とご努力に感銘を受けました。
- ・AL の定義、意義がよく分かりました。
- ・ポートフォリオの有効的使用方法のヒントも分かりました。
- ・ブランク・ルーブリックの使い方
- ・バックアップポリシー（杉森先生）、PERM モデル（青木先生）
- ・AL を主体的学びに結び付けるための工夫（ツールなど）がよくわかった。SA/TA などを活用して学習支援に活かすことが出来るし効果的であることがわかった。
- ・AL と TA の関係について、AL のみではダメというのは新しかった。
- ・前半のみでしたが、授業カタログ **Active Learning Advisor** の設計は大変参考になりました。
- ・SA が重要なこと

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・職員の関わり方など
- ・（職員の立場のため）職員として制度設計にどこまでかかわるかがわかれば良かったです。
- ・反転授業について聞き漏らしました。
- ・高等教育学のテクニカルタームが未成熟だと思いました。似たような言語でちがったことをさしていることがよく出ていたと思います。よくわからなくても失敗しつつとりくむことの大切さも。
- ・学生による自己評価とは、具体的にどのような内容のものが出てくるのか知りたかった。
- ・非常勤教員にもサポート体制が用意されているのか。
- ・学修成果のとらえ方
- ・過度な授業スケジュールの中に学生のピアサポートを組み込むためには、1～4年生の全体の授業時間割を整理しなければいけないが、その際の工夫
- ・支援しきれない学生をどう見分けていくか？教員の時間も体力も有限であるので、資源を有効に対象（学生）に振り向けなければならないので。
- ・SA/TA などの予算を AP や補助金期間終了後どのように捻出するのかわからなかった。

## 3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・現在、教育学修支援の組織を検討している。まず現状を可視化し、何もできていない事を理解してもらおう。

次ページに続く

- ・教員・学生の両方の意見を聞いてしっかり伝える能力
- ・学生にとって興味、関心をもつ授業への転換（アクティブラーニングに限らず、教授法の改善）
- ・初年次教育にかける職員の授業への参画制度（職員サポーター制度）
- ・教学マネジメントで学習支援のしくみをつくることの有効性を想定するとともに、過剰にシステム化されればかえって能動性を阻害するというリスクも想定しておく必要があると思います。
- ・学生が主役であり「何を学ぶのか、何ができるようになるのか」がブレないことが大事であり、「在学している4年間で達成感が持てる」こと、そのために大学職員は学び支援をするということをあらためて感じました。
- ・本学図書館では、学生協働に力を入れて取り組んでいるが、今日の事例にもあるように、学生に対してどれだけケアできる体制と制度が整っているかだと思う。
- ・新しい手法へのとりくみに対する温度差が、教員の中にもあり、組織としてまとめて動いていく（動かしていく）力が必要ですね。
- ・今日の話はとても重要、自らの活動にも導入できたらいいと思う。

#### 4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。アクティブラーニングは、大学（教員）が行っているのではなく、学生が行わなければ何の意味もないこと、あらためて感じ、今後の取組みにおいて意識していきたいと思いました。
- ・とても勉強になりました。
- ・大学の事例として参考になりました。このような取組みがユニバーサルな社会につながるのかなと思いました。
- ・ALCのとりくみは、本学全体へのアプローチとして期待しています。これからもよろしくお願いします。
- ・関心が多く持たれるようになっていく最新のトピックをとりあげいただき、自分で学びはじめる予備知識を得るうえでとても役にたった。
- ・大変興味深い内容をありがとうございました。
- ・教員向けのようにも思われたが、事務職員として、学修環境についての情報提供、またキャリアデザインに対するアドバイス等が学生に対しできるのではないかと思えた。また、金沢工業大学のポートフォリオは大変参考になった。
- ・先進的実践事例の説明というだけに、非常に参考になる所が多くあった。少しでも職場で活用できるよう検討していきたい。
- ・教育の「成果」というものをみきわめるのは非常に難しいと思っております。今日の金沢工大のとりくみは涙がでるほど感動的でした。とてもわかりやすく、ありがとうございました。
- ・私は入試課に所属して主として入試広報の仕事をしております。様々な説明会等で大学教育の質的転換等についても話題になり、時に質問を受けることもあります。私自身の理解、具体的なイメージが多少なりとも豊かになったことは、今後の仕事につながるという点でも大変有益でした。
- ・授業ですぐに活用できるテクニックを沢山教えて頂き感謝します。いずれの大学も学生のことを真に考えて労力、予算をさいていらっしやることがよく分かり、感銘を受けました。
- ・金工大の青木先生のお話は現場実践の話だったので心に響いた。
- ・本心で話していただけたのでよかった。
- ・大変参考になりました。実践に活かしていきたい。
- ・とても良かったセミナーで、ありがとうございました。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 24名 b. 千葉大学内の方 11名(回答なし 1名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 12名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 11名 d. 図書館職員 6名  
e. 出版関係 0名 f. その他 5名(回答なし 2名)

6. セミナーを何で知りましたか?

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 6名 b. Web(図書館) 0名 c. Web(千葉大学) 1名

d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 2名 f. センターからのメール 20名 g. Facebook・Twitter 0名

h. その他 8名(asagaoメールなど)(複数回答あり)

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：( ) 所属：( )  
電子メールアドレス：  申込時に利用したもの  それ以外 ( )

ご協力ありがとうございました。

※12名が新規に継続的な情報提供を希望